

■除草剤：農業用

サンシャイン[®]フロアブル

成分 ピラクロニル……3.9%
 ベンゾビシクロン……3.9%
 物理的・化学的性状 類白色水性和性粘懸濁液体

登録番号：22253
 毒性：－
 消防法：－
 有効年限：2年

包装：500ml×20 2ℓ×8

◆特長

- ピラクロニルとベンゾビシクロンの作用でホタルイ、アゼナに効果を示します。
- S U抵抗性雑草（ホタルイ、ミズアオイ、アゼナ等）に対しても高い効果を示します。
- 2成分剤のため減農薬栽培（成分数に制限のある栽培）に有用な除草剤です。

◆適用と使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ピラクロニルを含む農薬の総使用回数	ベンゾビシクロンを含む農薬の総使用回数
移植水稲	水田一年生雑草及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ クログワイ オモダカ コウキヤガラ シズイ	移植直後～ ノビエ2葉期 ただし、 移植後30日まで	500ml/ 10 a	1回	原液湛水散布	2回 以内	2回 以内
		移植時			田植同時散布機で 施用		
直播水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヒルムシロ	稲1葉期～ ノビエ2葉期 ただし、 収穫75日前まで			原液湛水散布		

ラベルをよく読み、ラベルの記載以外には使用しないで下さい。

◆注意事項

- (1)本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2葉期までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ（「移植水稲」は発生始期まで）、ヘラオモダカは2葉期まで、クログワイ、オモダカ、コウキヤガラは、発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、ヒルム

シロは発生期までが本剤の散布適期である。クログワイ、オモダカ、コウキヤガラ、シズイは、発生期間が長く、遅い発生のものには十分な効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。またクログワイ、オモダカは連年施用することによりさらに効果が向上する。

- (2) 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (3) 処理に当たっては、水の出入りを止めて水深3～5cmの湛水状態にし、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (4) 処理後に多量の雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- (5) 田植え前に発生したミズガヤツリは、完全に防除してから使用する。
- (6) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (7) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
 - ① 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
 - ② 軟弱な苗を移植した水田
 - ③ 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
 - ④ 稲の根が露出している水田
 - ⑤ 極端な深水となった水田
- (8) 処理後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (9) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (10) いぐさ栽培予定の水田では使用しないこと。
- (11) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (12) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (13) 直播水稲に使用する場合、発芽直後の稲に対して薬害を生じるおそれがあるので、適切な覆土を行い、稲の1葉期以降に散布すること。
- (14) 乾田直播では、入水前散布の初期剤との体系で使用することが望ましい。
- (15) 乾田直播の場合は、入水後しばらくは漏水が多く、効果不足や薬害の出るおそれがあるので漏水が少なくなってから散布すること。
- (16) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

◆安全使用上の注意

散布の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。

◆魚毒性

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。